旭川デザインウィーク

岩田 聡

去る6月18日から26日にかけて旭川デザインウィークが開催されました。旭川デザインウィークとは，シンポジウムや体験型イベントによるデザインの祭典です。旭川市は家具生産がさかんなことを背景に，これまでデザインにこだわったまちづくりを進めてきました。国際連合教育科学文化機関（UNESCO）では，創造都市ネットワークとして，創造性を核とした国際的な都市間の連携によって地域の創造産業の発展を図り持続可能な開発を進めるため，文学，映画，音楽，クラフト＆フォークアート，デザイン，メディアアート，食文化の7つの分野で創造的な取り組みを行う世界各国の都市の加盟認定を進めており，旭川市は2019年にこの創造都市ネットワークのデザイン分野で加盟認定されたのです。デザイン分野における国内の認定は，神戸市，名古屋市に次いで旭川市が3番目で，海外では北京，ベルリン，メキシコシティなど首都の加盟が多い中，北海道から旭川市が選ばれたことは誇るべきことに思います。

「デザイン」というと意匠としてのデザインを思い浮かべることが多いと思いますが，最近では「デザイン経営」といった言葉もあり，「パーパス経営」というものに近いのかもしれませんが，企業などの存在理念実現のために，どのように企画経営していくかということもデザインに含まれているようです。そういう意味で林産試験場の研究をどう展開していくかということもデザインといえるでしょう。

さて，そのデザインウィークでは6月18日，19日の2日間にオープニングを飾るイベントとして「まちなかキャンパス」が開催されました。まちなかキャンパスとは，高校，高専，大学，NPO法人などの各種団体が旭川市の買物公園でワークショップを開いて，小学生をはじめとした子どもたちに楽しく学ぶ機会をつくるイベントです。道総研からも林産試験場のほか北方建築総合研究所，道からも北の森づくり専門学院（北森カレッジ）が出展に協力しました。

林産試験場からは，かんなくずにトドマツ精油をふりかけて匂い袋をつくるワークショップを実施しました。このところの感染症対策から，久々のリアルなイベントとなったこともあって，子どもたちはじめたくさんの来場者があり，準備した匂い袋はあっという間になくなりました。私たちスタッフも来場者との交流を楽しむことができました。

ワークショップに参加された方々から，林産試験場が夏に開催する「木になるフェスティバル」は行うのかという質問が多くありました。比較的関心のある方たちだとしても，フェスティバルが市民のみなさんに定着したイベントになっているようです。しかしながら，今年もリアル開催は控え，7月19日～8月31日のWeb開催としたところです。

（https://www.hro.or.jp/list/forest/research/fpri/event/fes.html）

今回のまちなかキャンパスでは，木になるフェスティバルをきっかけに木材に関心をもち，今では建築について学校で学んでいるという学生さんがきてくれました。林産試験場で行うささやかなイベントをきっかけに，ちょっとした化学変化が起きたようです。旭川市や近郊の町では，今回のデザインウィークや森林の市といった各種イベントが開催されます。木にまつわる木育イベントが新しい胎動を生みだすかもしれないと考えるとまんざらでもなく思います。

（林産試験場長）